



# SPORT for Life

～スポーツで人生を謳歌する～



いくつになっても心身ともに健康な生活を送りたいものです。年齢を気にすることなく生涯スポーツに取り組むことで、体調の維持だけでなく、新たな交友関係を築くことができるなど様々な喜びや楽しみがあります。スポーツをこよなく愛し、「人生を豊かに過ごしている」人物をご紹介します。

第8回  
2016.08.21

はら ひろゆき  
**原博之** さん 57歳

## 代表、常任理事、審判として サッカーの町・堺を盛り上げる

大阪府堺市の「J-GREEN 堺」で8月中旬に開催された、平成28年度堺市種目別優勝大会トーナメントに出場した原さん。所属チーム代表、堺サッカー連盟常任理事、審判委員会委員長の3役を担いながら、「サッカーの町・堺」を支えている。

### 試合が無くても大会をサポート

真夏の太陽が天然芝を照らす。この日の大阪の最高気温は36.9℃。青空に入道雲。鮮やかな緑と青と白が彩るピッチに、赤と紺のユニフォームに身を包んだ両チームが躍動する。「堺フェニックス」に「ヤングタウン」の決勝戦。所属する「登美丘クラブ」がAブロック初戦敗退に終わった原さんは、決勝戦を審判委員長・常任理事の立場で、ピッチサイドで見守った。「私のチームは若手主体で勢いのある相手（FC DREAM）に負けてしまいましたから。前半は良かったのですが、いかんせんスピードが違うので後半はやられてしまいました。今日はチームの試合はありませんが、大会のサポート役に徹します」と原さん。試合前には副審のフラッグを人念にチェックし、優勝チームへのトロフィーなど表彰式の準備に余念がない。決勝戦が無事に終わると安どの表情を浮かべながら、ピッチを後にした。

### 堺市がサッカーの町と言われ るように

競技を始めたきっかけは「三菱ダイヤモンド・サッカー」。世界のサッカーがほとんど放送されて

いなかった時代に、1968年から放送されていたサッカー番組だ。「西ドイツ代表MFギンター・ネットツァーが一番好きな選手でした」。中学入學と同時にサッカー部に入ると、高校でも続け、卒業後は高校OBで構成される登美丘クラブに所属。攻撃的MFとして現在まで45年間サッカーに携わっている。サッカー部を中心とした「ミニ同窓会」には、今では硬式テニス部、ラグビー部なども加わっている。「同級生だけで15人ほどミナミで集まりますよ。周囲から『ずっと続けられることがあって良いね!』と言われますね」。22歳からクラブ代表を務め、20代半ばで審判員の資格を取得。今ではクラブ代表、堺サッカー連盟常任理事、審判委員会委員長の3役を担いながら、堺市のサッカーを盛り上げている。「堺市がサッカーの町と言われるように、堺市での大会はもちろん、堺のチームはきつちりとした試合を行っていると感じてもらいたいですね」と笑った。



### 原さんに聞く

#### 体作りの秘訣は?

原 食事面では野菜やサラダを積極的に食べるようにしています。特に、油ものが続かないように意識しています。

#### 審判として大切なことは?

原 人間ですから思うところもありますが、私情を挟まずに審判として1試合通して同じ基準で笛を吹くことですね。

#### 最近の趣味は?

原 昨年から展覧会や博覧会にハマっています。つい最近も「始皇帝と大兵馬備」を見に行きましたが、凄く良かったですよ。

#### 関西フールドマスタース ゲームズ2021について 一言

原 5年後となると60歳を超えていますね。堺サッカー連盟として、どのような形でかわることができるかわかりませんが、出場するならば審判より選手としての方が良いですね(笑)。